

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぶらねっとスクール樟葉		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年4月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一台のパソコンを確保し、タイピング練習やマウス操作などの基礎的なスキルから、周囲を気にせず自分のペースで活動できる環境を整えています。学習課題やタイピング練習など、その日に取り組むべき活動を終えたあとに、児童が自らその後の活動内容を選択・決定する流れを取り入れています。	基本的にはその日の活動スケジュールを子ども自身に決めてもらっています。「何時に帰るから、それまでにこれを終わらせよう」といった、帰宅時間から逆算した時間の使い方ができるよう、職員が個別に声掛けを行っています。自ら計画を立て、自己決定する経験を積み重ねることで、見通しを持って行動する力を育てよう意識しています。	子どもたちがより具体的に一日の見通しを立てられるよう、視覚的なスケジュール表の活用や、職員との振り返りの時間を設けるなどの工夫を継続的に行い、自己管理能力のさらなる向上を支援していきます。
2	集中して取り組める「個別ブース」と、のびのび過ごせる「オープンスペース」の両方を備えており、活動内容や本人の状態に合わせて柔軟に場所を選択できる環境があります。	その日の気分や活動内容に合わせて、座る場所を子ども自身で選べるようにしています。例えば、集中が必要な学習は個別ブースで行い、それ以外の活動はオープンスペースへ促すなど、個々の特性や課題に合わせて気持ちの切り替えができるよう環境調整を行っています。	子どもたちが自分の心の状態に気づき、「今は集中したいからブースへ行こう」といった自己調整がよりスムーズにできるよう、声掛けの質を高めていきます。物理的な仕切りを増やすのではなく、空間の使い分けを通じて、周囲とのコミュニケーションと個人の活動をバランスよく両立できる支援を目指します。
3	学習やタイピングといった日課と、その後の活動を自分自身で構成する時間を設けています。決められた活動を終えたあとに、自分で決めた活動に取り組むという一連の流れを通じて、物事に優先順位をつけて取り組む姿勢を育てています。	タイピング練習などの基礎的な課題を終えたあと、残りの時間をどう使うかを子ども自身に決めてもらっています。やりたいことを選ぶ際も、単に時間を過ごすだけでなく「今日はこれを完成させる」「次はこれに挑戦する」といった目的意識を持てるよう、必要に応じてアドバイスや提案を行っています。	子どもたちの「自分で決めた」という達成感をより深められるよう、選択できる活動の幅を広げたり、取り組んだ成果を可視化して自信に繋げられるような仕組みづくりを検討していきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様同士、あるいは保護者様とスタッフが、対面でゆとりと情報共有や交流を行える機会が不足しています。	平日の放課後は子どもたちが事業所で過ごす時間が限られており、また送迎の時間帯もご家庭ごとに異なるため、まとまった相談や交流の場を設けることが物理的に難しい状況にあります。	対面での集まりを無理に設定するのではなく、日々の活動記録などを通じて情報共有をより丁寧に行う工夫を検討していきます。また、事業所での様子を写真などでお伝えする機会を増やすなど、日々の連携を深めるための取り組みを進めてまいります。
2	平日における集団活動や、子ども同士のコミュニケーション機会の確保が課題となっています。	放課後の限られた時間の中では、学習課題やタイピング練習、そして本人が選んだ個別活動を優先するため、全員で一つのことに取り組む時間を確保しにくい現状があります。	平日は個々の課題を優先していますが、時間にゆとりのある長期休暇などには、みんなで共通のお題に沿ってそれぞれが制作を行い、最後にそれを見せ合って発表する機会を設けています。同じ目標に向かって取り組んだり、お互いの工夫を知ったりする経験を大切にしています。今後は、さらにメンバー同士で協力できるような要素も取り入れ、一人ひとりの力を合わせることで達成感を得られるような機会を増やしていければと考えています。
3	個性の高い活動内容(自分で決めた活動)について、そのプロセスや成果を外部へ可視化する仕組みが不十分です。	一人ひとりが異なるスケジュールで、かつパソコン内での創作や練習を個別に行っているため、活動の様子が外から見えにくく、日々の成長の過程を具体的に伝えきれない側面があります。	現在行っている「定期的な取り組み成果の配布」や「個別支援計画の更新時の作品紹介」を継続しつつ、日々の活動記録等でも「どう工夫したか」といった意欲の面をより具体的に添えられるよう努めます。数値で見える結果だけでなく、本人の頑張りが変化がより丁寧に伝わるよう、お伝えの仕方を工夫していきます。